業界のトップランナー

大静高圧株式会社

長泉町にある大静高圧株式会社は、２０１６年に創立５０年を迎えたガス容器再検査事業を行う企業だ。現在は、高圧ガス容器の検査機器類の製造、販売といった幅広い業務まで全て自社で行っている。また、容器をくず化する時に出る残ガスを利用して、災害時にライフラインが断たれても稼働可能なコインランドリーの運営など、積極的な地域貢献を行っている。

唯一無二の技術

大静高圧では、専門業者に頼らず検査に使用する多くの部品や機械を自社で製作している。

白砂さんは「私たちのようなガス容器の検査を行う会社は少ない。そのため、必要としている機械や部品を手に入れることが難しい。業者に作ってもらうとなると時間がかかってしまうため、自分たちで作ることを決意した。そうすることで、現場の声が詰まったものを作ることができる」と話した。

基準を作る

大静高圧は、ガス業界のトップとして、耐圧検査に係る機器類の加工、組み立て、販売までを自社で行っている。そのため、業界内からも注目を浴び、同じ機械を導入したいという依頼が殺到している。また、技術を学びに海外から研修に来ることもある。

白砂さんは、「業界内の新しい基準を作っていると自負している」と熱く語った。

他にも、ガス容器などの湾曲した面でもきれいに表示できる大静高圧オリジナルのフォント（大静フォント）や自動で安全にバルブを分解する機械の開発を手がけている。

大静フォントについて語る白砂さん

LPガス検査の先駆者

大静高圧株式会社は、高圧ガス容器耐圧検査登録会社として、LPガス容器や一般高圧ガス容器の検査を行っている。

ガス容器は近隣の県から回収しており、年間でLPガス容器は約１７万本・一般高圧ガス容器は約６万本もの再検査を行っている。そのため、検査工程をシステムライン化して、スムーズな作業を行っている。

ガス容器の検査をする上で気を付けていることを白砂さんに聞くと、「ガスによる事故はとても大きな被害に繋がることがある。命に直接関わることだという意識を強く持って届け先での事故が絶対に起きないように心がけている」と真剣な眼差しで話した。

また、検査に使う機械を自社で製作したりカスタマイズすることで、安全に作業できる環境を整えている。

地域と未来のために

大静高圧株式会社は、LPガス容器の再検査だけでなく、地域貢献や環境問題への取り組みを行っている。その一環として、大静テクノでくず化処理するボンベから回収した残ガスを、自社のクロワッサン専門店やコインランドリーで再利用している。また、長泉町の特産品である長泉メロンの栽培にも取り組んでいる。この事業はまだ見通しが立っていないが、生産者が減少している中で特産品の維持など、地域や未来の環境のため、この先も継続していくという。

その理由について、白砂さんは「自分たちが普段お世話になっている地域の方々に少しでも恩返しがしたいからだ」と話した。また「人々の暮らしに欠かせないエネルギーを担う企業として未来や地域に貢献していきたい」と語った。

工場内を見学する部員

人参で作る健康

～株式会社一粒万倍～

株式会社一粒万倍は、平成１１年、自身の体験から人参の健康への効果を確信し「健康の創造」を経営理念に掲げて設立した。

お客様の声をヒントに

株式会社一粒万倍では、無農薬人参やこだわりの人参ジュースを販売することで、人々の健康に貢献している。他にも、ジューサーの購入者には無料でメンテナンスをするサービスや、ジュースのラベル作成なども自社で行っている。

広報活動にも力を入れており、YouTubeやTikTokで自社製品に関する動画を配信している。

一粒万倍は、設立当初は小松菜や豆腐、卵などの５００種類以上の商品を販売していたが、売り上げがなかなか伸びなかったという。だがある日、三島の農家の方から人参の販売を依頼されたことを機に、大量の人参の販売に踏み切ったところ、すぐに売り切れたそうだ。

これについて國末さんは「その時に、がん患者の方で大量の人参を求めている方々がいる事を知った。その後人参の販売に切り替えたことが現在の弊社につながっている。お客さまのアドバイスを参考にすることで、良い結果が望める」と経験に基づく教訓を語った。

人参ジュースについて語る國末さん

ピュアキャロップル（橙）ピュアキャロップルゴールド（黄）

地域住民へ恩返し

一粒万倍は、地域貢献として様々な事業に取り組んでいる。その一つに障がい者の方の雇用運動がある。

これについて國末さんは「障がいを持った方が一般の企業に就職するのは難しい。就労支援施設を通して働いたとしても、支払われる工賃はとても少ない。そこで弊社では、人参の残渣など牛のえさになる産業廃棄物を牧場に運搬してもらったり、農作業をしてもらったりしている」と話した。さらに「この事業は、お世話になっている地域住民の方に少しでも恩返しがしたくて続けている」と話した。

緑肥で育てた人参

健康維持に向けて

國末さんは、販売している人参ジュースについて「化学肥料を使わず緑肥だけで栽培した人参を使用しているため、苦みが少なくβカロテンの多い、免疫が高まりやすいジュースになっている」と語った。また、冷凍人参ジュースについて「健康のために飲んでいる人が多い。購入者の約６割が、がん患者の方だ。スロージューサーで生の人参を絞って飲むのが最も良いが、費用と時間がかかるため家庭では大変だ。そこで簡単かつ保存の効く冷凍人参ジュースがおすすめだ」と話した。添加物を入れずに、ペースト状にした人参をパックに入れて冷凍する。それによって菌の繁殖を防ぐことができる。そのため、水も添加物も含まれない人参１００％のストレートジュースを作ることができる。

編集後記

今回取材させていただきました両企業さまとも、地域・社会への貢献を重視していました。素晴らしい企業さま方に見学をさせていただき、とてもありがたく思います。この新聞を通して、県外の大学生が地元にも優良な企業があるということを知り、地元に戻ってくる足がかりとなることを願います。

３面担当
日大三島高校新聞部